

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 平林小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・平林小学校では、6 年生 46 名

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

- (2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立 平林小学校

児童数

46名

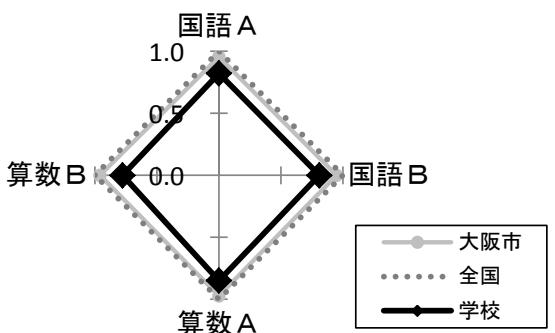
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	59.9	45.0	66.4	45.2
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

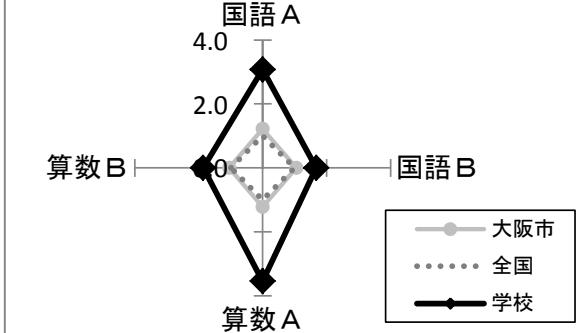
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	7.1	15.4	3.2	8.0
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

平均正答率は、国語・算数とも全国平均・大阪市平均よりも低い結果となっている。国語では、「読むこと書くこと」で改善が見られるが「話すこと・聞くこと」の方が全国・大阪市平均より下回っており、弱いことがわかる。算数では、「数と計算」の基礎基本は定着が見られるが、「図形」などの幾何学的問題には非常に弱いことが結果にあらわれている。一方、無解答率は全国平均・大阪市平均よりも高い。また、児童質問紙より基本的生活習慣・家庭学習に課題があり、保護者への啓発を図りたい。規範意識や学級・家庭・地域の連携については全国平均・大阪市平均を上回っており、さらに学校からの発信と連携の強化に努めたい。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

習熟度別少人数授業により、2クラスを3分割、クラス内2分割を行うことで、個に応じた指導方法を実施している。指導方法の違いで解決の達成感を味わわせることで、問題解決に向けて意欲を持たせている。また、学習の定着ができていない児童については放課後の時間を活用し、定着を図っている。これらの成果もあり、「読むこと・書くこと」「数の計算」など基礎基本的な項目については改善が少しずつではあるが見られている。

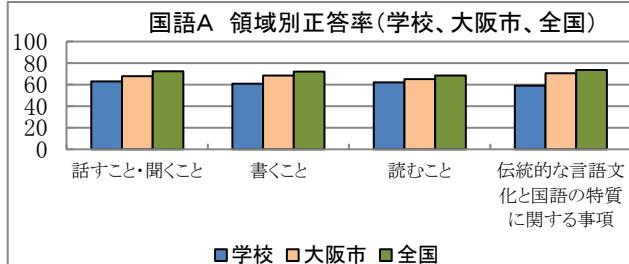
今後は、言語力や表現力を高める活動に重点をおき、指導計画をたて、学習を進めていく。説明力や話し合う力を身に着けさせるため、学級の友達との間で話し合う活動を積極的に行い、その中で自分の考えを深めたり、伝えたりする力をつけることで自分の思いを表現できるようにする。また、引き続き習熟度別少人数授業を充実させるなど、基礎基本をより定着させるよう取り組ませるとともに反復練習を家庭でも定着させていき、学習の習慣化をより一層図っていく。

【国語】

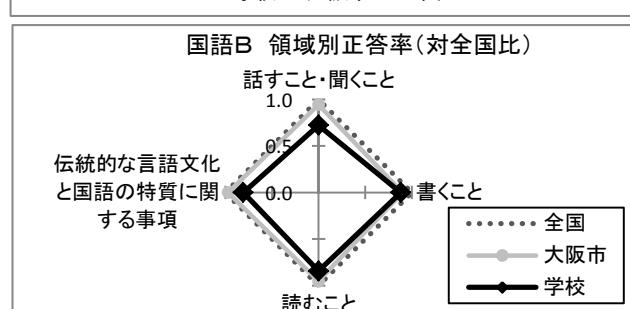
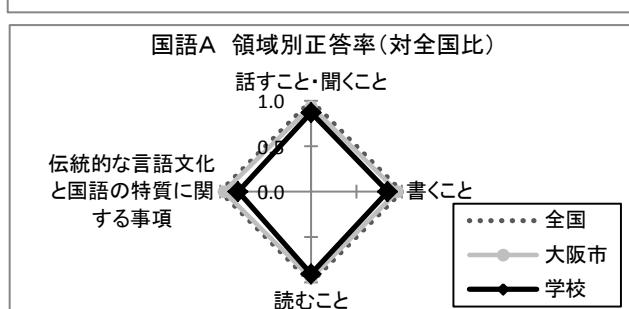
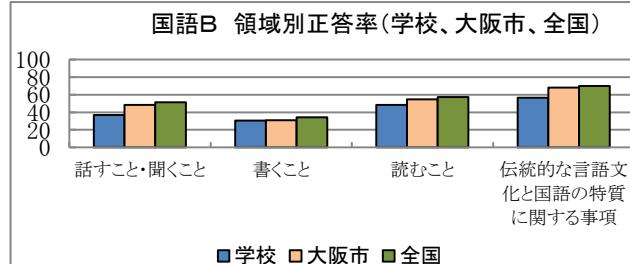
結果の概要

国語A・Bとともに大阪市平均・全国平均を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」に関してはA・Bともに4~11ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についてはA・Bとも11.4ポイント下回っている。また、質問紙からは国語が好きな児童は37%と非常に低く、他の質問紙からもわかるように、苦手意識をもつ児童が多い。

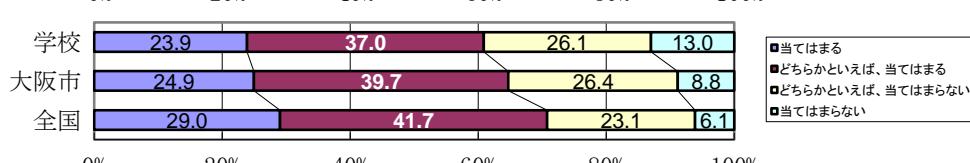
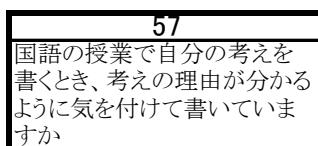
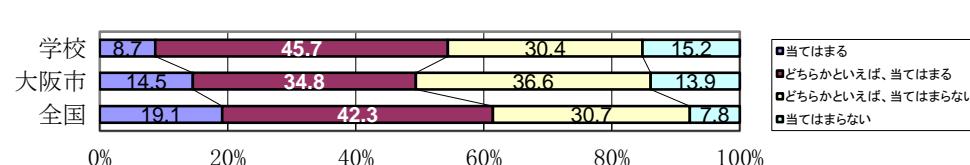
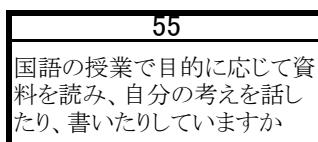
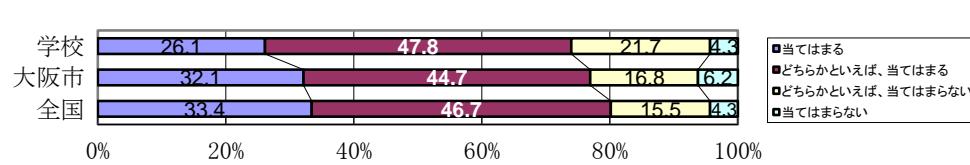
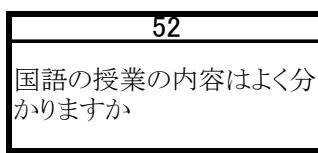
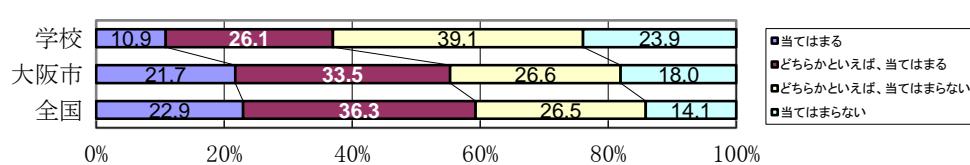
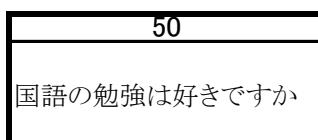
A 問題	平均正答率(%)			
	学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	63.0	67.9
	書くこと	3	60.9	68.5
	読むこと	2	62.0	65.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	59.2	70.6
平均正答率(%)				
学校 大阪市 全国				
72.4 51.2 67.9				
72.2 34.4 57.3				
68.5 57.3 69.8				



B 問題	平均正答率(%)			
	学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	37.0	48.3
	書くこと	3	30.4	30.9
	読むこと	7	48.4	54.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	56.5	67.9
平均正答率(%)				
学校 大阪市 全国				
51.2 34.4 67.9				
30.9 57.3 69.8				



国語に関する「児童質問紙」



成果と課題

習熟度別少人数授業により、自分の考えを話す活動や、書く活動を充実させることができている。しかし、考え方を深めるまでには至っていない。考え方の理由を他の人が理解できるように話したり書いたりすることで言語力を向上せることが課題である。

今後の取組

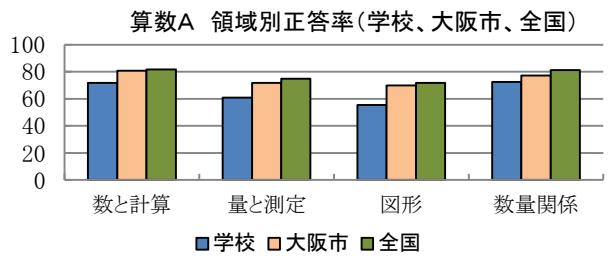
本の貸し出しや読み聞かせ等の機会を増やすなど、学校図書館を活用することで、学級での読書指導を継続して充実させる。また、国語の授業だけでなくすべての授業において根拠になる事柄を考え、話したり書いたりする活動を増やすことで言語力の向上に努める。

【算数】

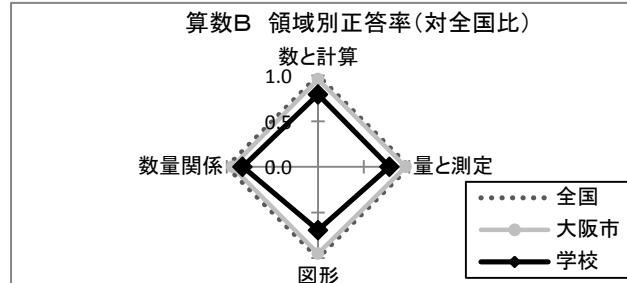
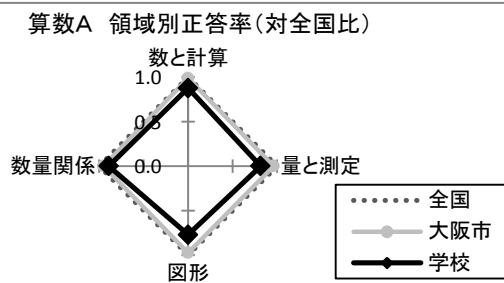
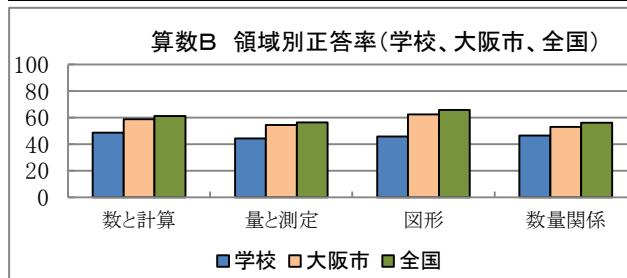
結果の概要

算数A・Bともに大阪市平均を下回っている。「数量関係」では大阪市平均に4~6ポイント差と改善がみられるが、「図形」においては14ポイント以上下回っており、苦手意識が見られる。児童質問紙では「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問では肯定的にとらえる児童が少なく、算数の学習が普段の生活と密着していない。

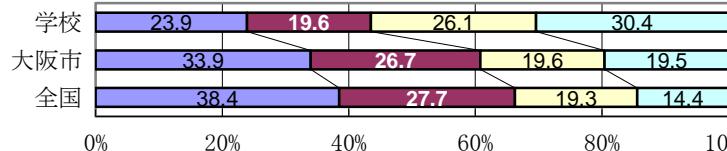
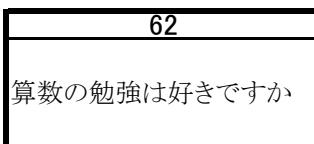
A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	71.7	80.8
	量と測定	3	60.9	71.8
	図形	4	55.4	70.0
	数量関係	3	72.5	77.2



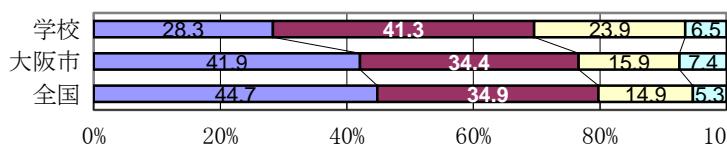
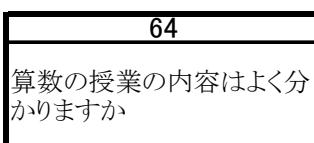
B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	48.6	58.9
	量と測定	5	44.3	54.4
	図形	1	45.7	62.5
	数量関係	5	46.5	52.9



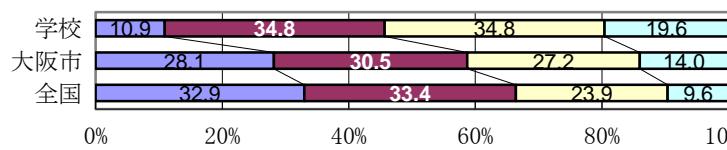
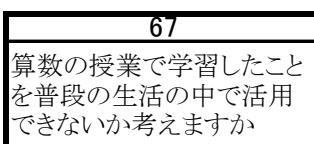
算数に関する「児童質問紙」



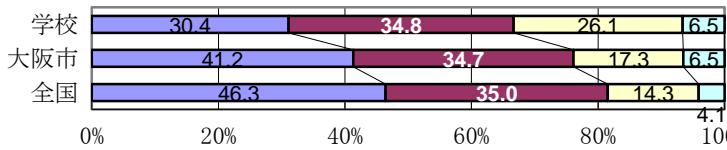
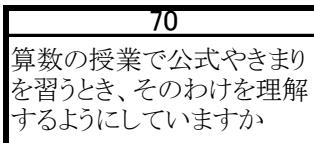
- 当ではまる
- どちらかといえば、当ではまる
- どちらかといえば、当ではまらない
- 当ではまらない



- 当ではまる
- どちらかといえば、当ではまる
- どちらかといえば、当ではまらない
- 当ではまらない



- 当ではまる
- どちらかといえば、当ではまる
- どちらかといえば、当ではまらない
- 当ではまらない



- 当ではまる
- どちらかといえば、当ではまる
- どちらかといえば、当ではまらない
- 当ではまらない

成果と課題

習熟度別少人数授業や計算等の反復練習を行うことで少しづつではあるが昨年度より定着してきている。一方で、図形などの計算が答えに直結しにくい分野では理解度が低いことが課題としてあげられる。

今後の取組

習熟度別少人数授業、基礎基本定着のための反復練習は継続して行う。「図形」においては習熟度別少人数授業を積極的に行い、個に応じた指導方法を工夫していくことで定着を図る。また、日常生活に関係した問題を多く取り入れることで、考える力をつけさせていく。

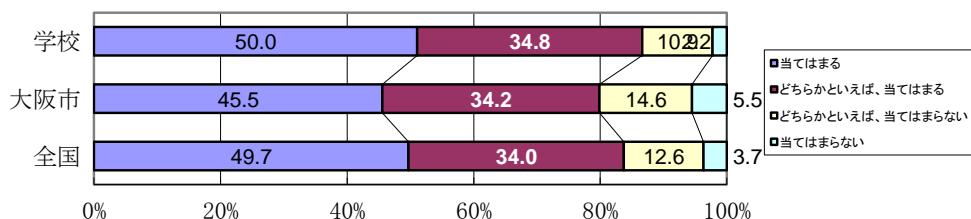
学びの充実に向けて(1)

結果の概要

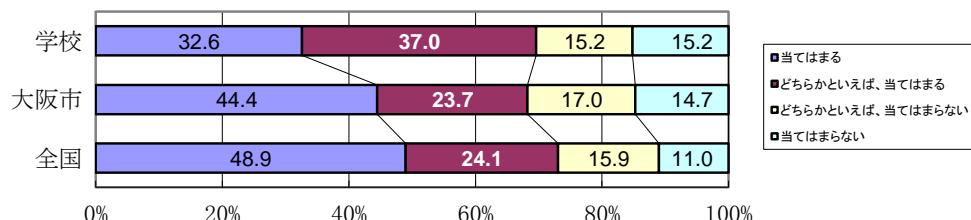
「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問事項は全国平均、大阪市平均を上回っている。「読書は好きですか」の質問事項は全国平均を少し下回っているが、大阪市平均よりは上回っている。比較的自分の考えを深めたり、広げたりして発表する機会はある。

質問番号	質問事項
------	------

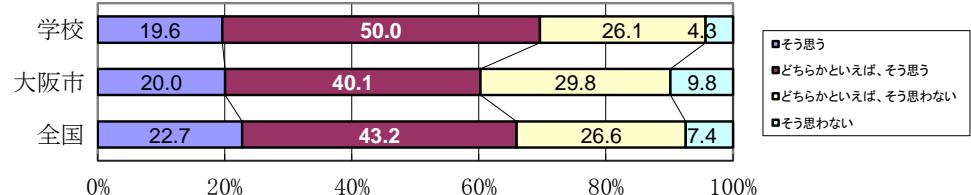
42
5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

自分の考えを発表する機会があることで、自分の考えを深めたり、広げたりしながら発表することは徐々に定着してきている。しかし、読書を含め読むことに関して、肯定的にとらえられるように改善する必要がある。「読書は好きですか」については、大阪市平均よりも少し高い値がでているが、好きだけではなく、本文の中身を十分に理解できているかどうかは正答率の結果が表している。今後も言語力の定着と向上を図るため、考えを発表させたり書きせたりするなど学習の充実と深化を図る。

今後の取組

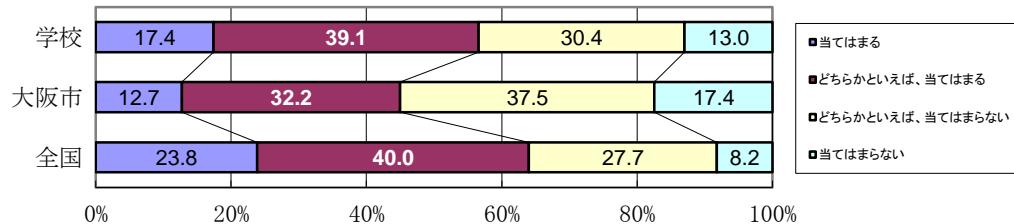
話し合い活動や考えを深める活動は継続して行う。読書については朝の読書タイムの充実や読み聞かせ、本の紹介など読書に興味を持たせることで、定着を図れるように取り組んでいく。話し合い活動や、考えを深めたり広げたりする活動は継続して行うとともに、ノート指導を工夫することで考えを書く活動を充実させ、自分の思いを表現する学習習慣を身につけていく。

学びの充実に向けて(2)

結果の概要

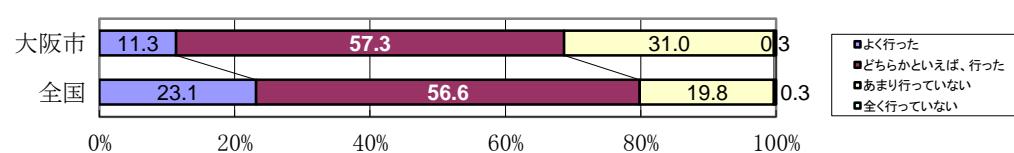
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、全国平均より低く大阪市平均より上回っている。学校質問紙の「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか」の結果が少し表れていると考えられる。また、「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」では、全国、大阪市平均よりも下回っており、今後も話し合う活動を重点的に取り入れていきたい。

質問番号	質問事項
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



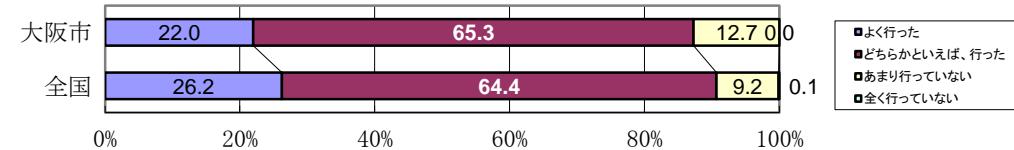
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

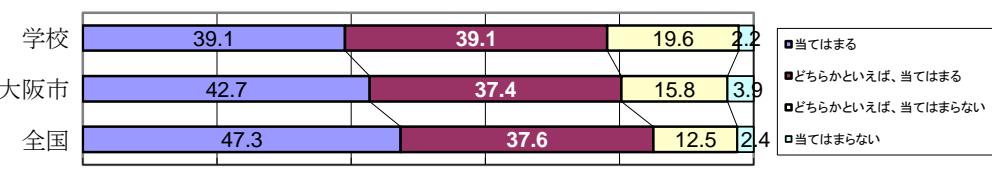


41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか

学校 「よく行った」を選択



43
5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

自分で調べたり、まとめたりする学習活動は国語・総合を中心に行っており、少しずつではあるが成果は表れている。しかし、発表する形式を多く取り入れる一方で、話し合う活動が少なくなってしまい、かたよっていることが課題である。

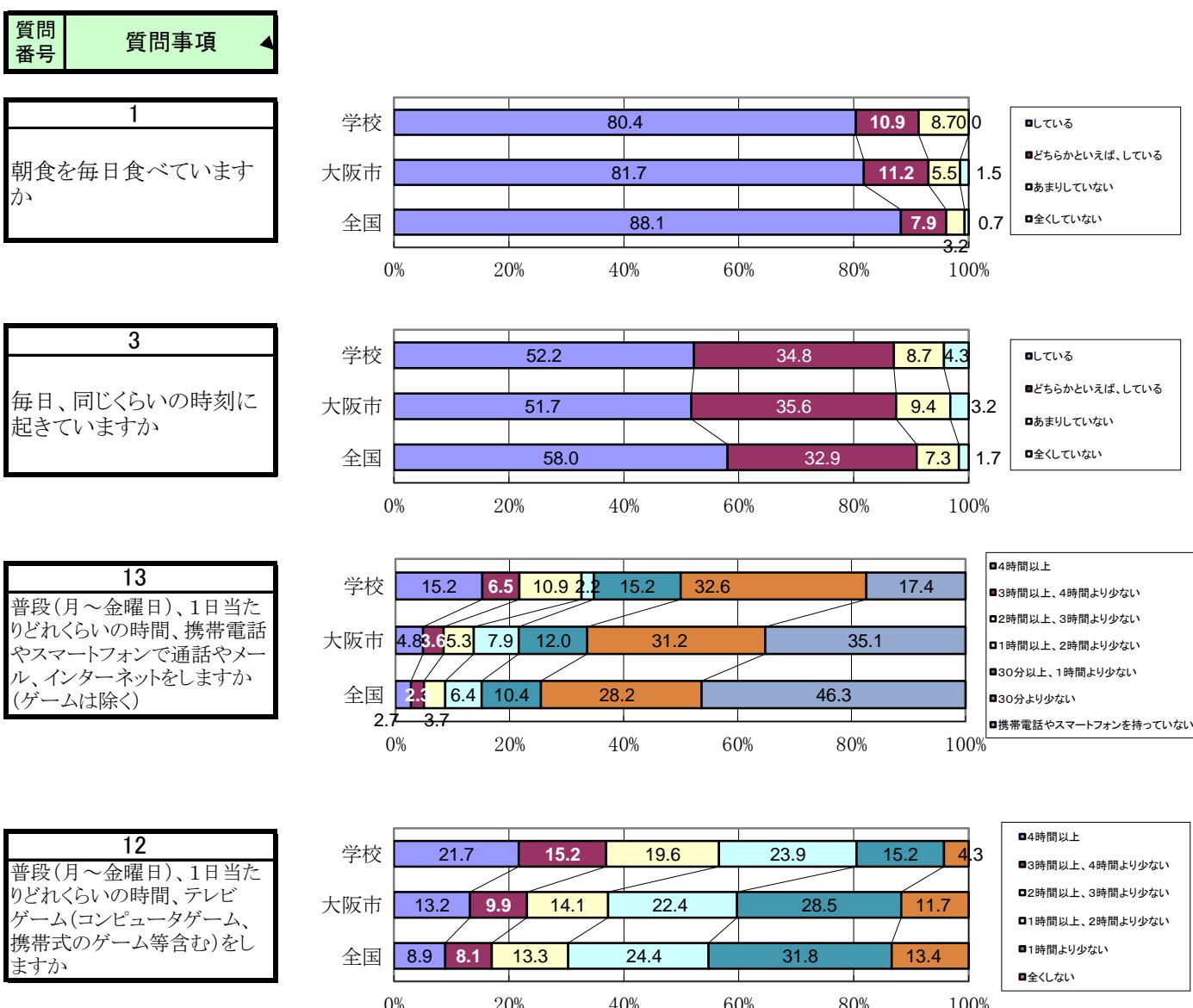
今後の取組

班活動などの少人数での話し合い活動を取り入れることで、話す機会を設け、より考えを深めることができる取り組みを推進していく。また、自分の持っている能力を発揮できる学習活動の時間を増やしていく。

基本的生活習慣

結果の概要

全国平均、大阪市平均に比べて「朝食を食べていない」児童の割合が多く、起きる時間も不規則な児童が多い。また、1日当たりの携帯・スマートフォンの使用時間、テレビゲームの使用時間は大阪市平均・全国平均よりも大変上回っている。さらに、携帯電話・スマートフォンの所持率も高い。朝食を食べるかどうか、睡眠時間の長さ、携帯電話やスマートフォンの使用時間の長さなどは、学校の授業での集中力に影響してくる。



成果と課題

基本的生活習慣が学校での学習に影響が出ている。基本的生活習慣の大切さについては、これからも学校だより・学年だより・ほけんだより等で発信するとともに電話連絡や、個人懇談会でも発信していきたい。しかし、成果が上がるまでには至っていないことが本校の課題である。

今後の取組

ホームページ、懇談会、PTA活動、地域の活動等を通して、基本的生活習慣の大切さを啓発するとともに、PTAや地域からも発信してもらうように協力を求める。また、家庭とより一層連絡を密にするとともに、家庭での過ごし方を指導し基本的生活習慣の確立に努める。

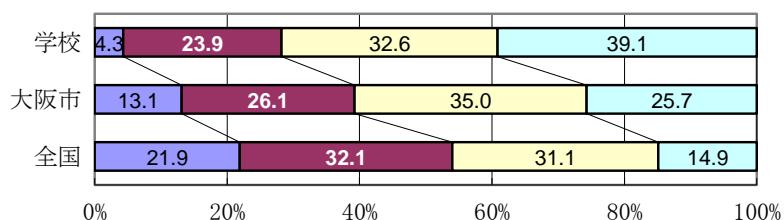
家庭学習

結果の概要

「家で、学校の授業の復習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問事項について、どれも全国平均、大阪市平均を下回っている。家庭学習の習慣が全国・大阪市と比較して定着できていない。計画を立てて勉強することができない児童が多いということは、復習をする児童も少ないという表れである。

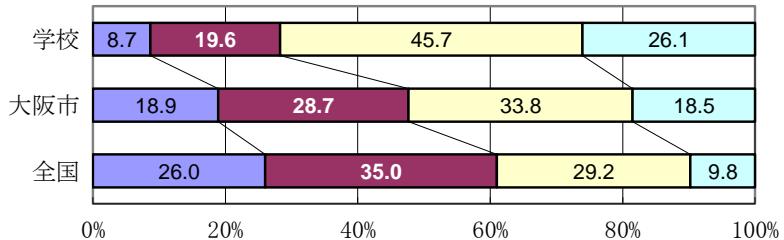
質問番号 質問事項 ◀

24 家で、学校の授業の復習をしていますか



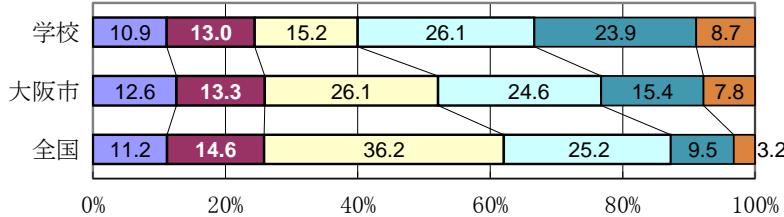
- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

成果と課題

学校だよりや学年だより、学級だよりを通じて、家庭での教育力向上につながる支援を発信している。また、学級懇談会や個人懇談会を中心に家庭学習の習慣化をはかるための支援をお願いしている。宿題としても授業の復習や計算・漢字の反復練習をさせているが定着には至っていない。

今後の取組

基本的生活習慣と同様に家庭との連絡をより一層密にするとともに、家の過ごし方を学校で指導したり、家庭で話し合ったりすることで定着をはかる。また、児童が取り組みやすい家庭学習の工夫をしていく。家庭学習に加えて、学校では放課後のステップアップ事業の取り組み、夏休みには学習サポート事業の一層の取り組みを推進していく。

自尊感情・規範意識

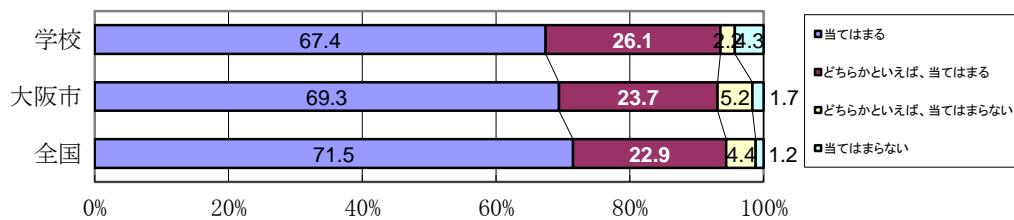
結果の概要

「学校のきまりを守っていますか」は大阪市平均よりも高く、全国平均よりも低い。規範意識については向上の傾向にある。自尊感情についての「自分には、よいところがあると思いますか」は肯定的にとらえる割合が大阪市平均より高い。自分のいいところを認める気持ちと大人などの他者からも認められたいという気持ちが表れていると思われる。「先生はあなたのいいところ認めてくれていると思いますか」については大阪市平均より低いが差は小さい。子どもたちの良いところを認めてあげることが学習意欲の向上や学校生活全体の積極性につながる。

質問番号	質問事項
------	------

4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



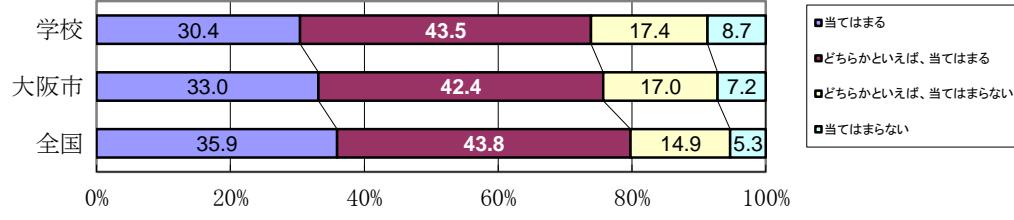
34

学校のきまりを守っていますか



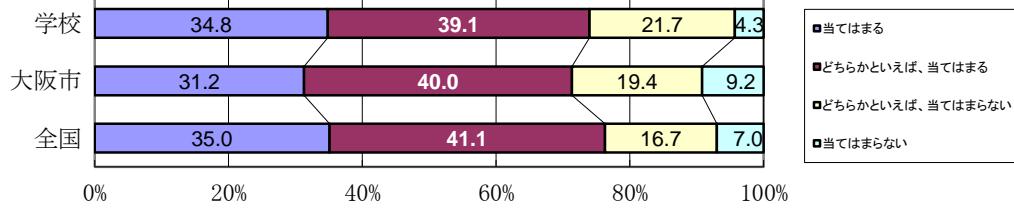
28

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6

自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

教職員が家庭と連携し、きまりを守り自己を大切にする指導を行ってきた。規範意識、自尊感情ともに少しづつではあるが定着してきている。より一層の定着をはかるために、指導方法についてはまだまだ改善が必要である。

今後の取組

自尊感情を高めながら、規範意識をもたせる指導方法の工夫に努める。また、学校・家庭・地域が協力して又はこれまで以上に連携を深め、思いやる気持ちや助け合う気持ちを育てていきたい。

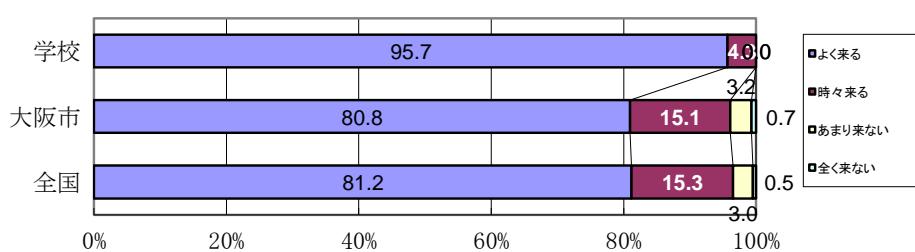
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

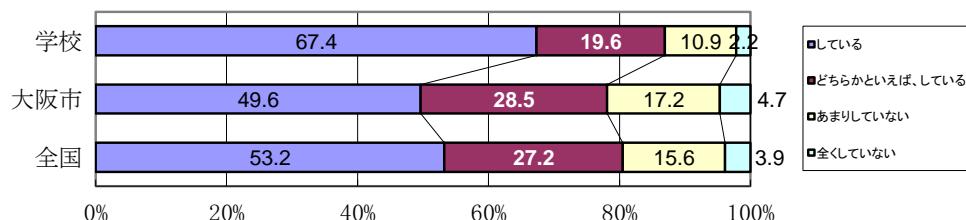
「家の人は授業参観や運動会などの学校の行事によく来ますか」については、大阪市・全国平均よりも非常に高い。また、「家人の人と学校での出来事について話をしますか」については、大阪市・全国平均よりも高い。しかし、地域や社会でおこっている問題や出来事にはあまり関心がないという結果が出ている。3つの質問事項の結果から保護者は子どもと学校行事についてコミュニケーションが深まっていると言える。一方、学習以外での知識を身につけるための話題を積極的にしてほしい。

質問番号	質問事項
------	------

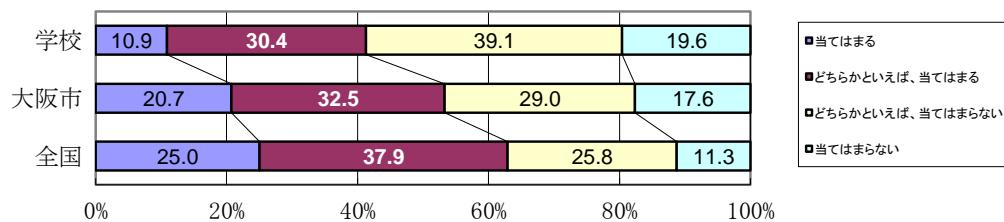
20
家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか



成果と課題

学校ホームページや学校だより・学年だよりでの発信、土曜授業などの学校公開を積極的に行っている。また、日頃の児童への声掛けもあり、「学校での出来事について話をしますか」については話をする児童が昨年度より増えている。しかし、子どもが直接参加しない行事や社会の出来事については保護者・児童ともに関心が低いことが課題である。

今後の取組

学校・家庭・地域の連携をより一層密にするとともに行事に参加しやすい環境づくりと保護者への発信を行う。また、日頃から社会の出来事を全校朝会や学級で話すことを心がけたり、保護者に社会の出来事を話すように奨めたりすることで、社会・地域に关心が向くように育てたい。

学校組織の改善

結果の概要

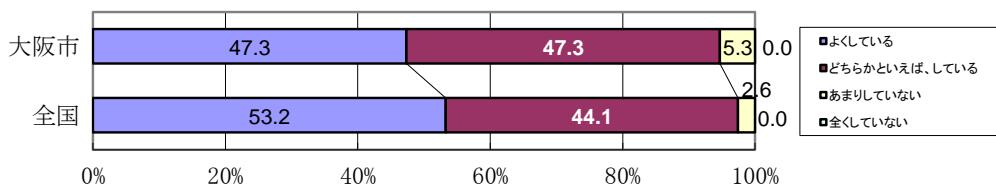
学校運営の状況、課題、教育目標を全教職員で共有し取り組んでいる。運営に関する計画をもとに、中間評価を行い、課題になるところを全教職員で共有し、課題解決に向け組織的に取り組んでいる。また、授業研究についても積極的に実施している。授業力向上とわかる授業を目的に授業研究を積極的に行い、研究討議会を実施し、授業力向上のための研修と研鑽を積ませる。

質問番号	質問事項
------	------

100 【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

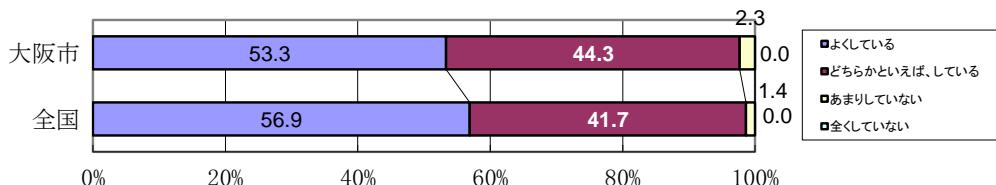
学校 「どちらかといえば、している」を選択



98 【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

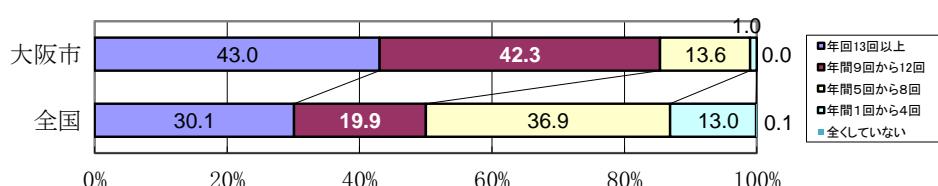
学校 「よくしている」を選択



91 【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校 「年間5回から8回」を選択



成果と課題

比較的少人数規模の学校であるため、学校運営の状況、課題、教育目標を全教職員で共有しやすく、組織的に取り組めている。しかし、組織が複雑で重複する部分もあるので組織の簡略化が必要である。授業研究については積極的に実施することで教員の授業力が向上している。外部講師を招聘し、指導助言をいただき、研鑽を積ませながら指導力の向上を図っている。

今後の取組

継続しながら全教職員と共有して、組織的に取り組んでいく。また、会議を精選し、より良い組織運営に向けた改善に取り組む。

授業研究については、年間に一人1回以上取り組む。授業力、指導力向上に向け研究部長が中心になり、授業研究の計画立案に取り組んでいく。外部講師を招いて、研究討議会を行い研修と研鑽を積むように指導していく。